

「宿場町に息づく記憶と未来」

— 台ヶ原の和菓子文化がつなぐ空間のあり方 —



0. 記憶がほどける場所

気づけば、足を止めてしまう場所がある。

光や風、そこに流れる時間のやわらかさが、人を自然と引き留める。

山梨県北杜市台ヶ原もまた、そうした空気を持つまちである。

甲州街道の宿場町として積み重ねられてきた歴史は、建物や道だけでなく、人の営みややさやかな風景の中にしみ出ている。その一端を担う和菓子屋は、日々の暮らしの中で人々に関わりながら、静かに記憶を重ねてきた存在である。こうした場所に、新たな時間の過ごし方を重ねたとき、どのような風景が生まれるのだろうか。

1. 滞在を生み出す場の和菓子店再構築

山梨県に根づく和菓子店「金精軒」

山梨県北杜市台ヶ原に構える既存店舗である「金精軒」は物販を中心に構成されており、訪れた人々がゆっくりと過ごせる飲食スペースが不足している。そのため、この地域の魅力を「購入するだけ」で終わってしまう状況が生まれていた。

本計画では、歴史的街並みに寄り添う空間の中で、**滞在できる場**を新たに設けることで、訪れる人々の体験を豊かにし、街に継続的ににぎわいを生み出すことを目指す。

単なる物販機能にとどまらず、地域と人をつなぎ、深く関わりを育む拠点として「金精軒」を再構築する計画である。



2. 山麗に開けた歴史の街道町「台ヶ原」

山梨県北杜市にある白州町台ヶ原

甲州街道の江戸・日本橋から数えて40番目の宿場であり、現在も当時の旅籠や商家の面影がしのばれる街並みが残されており、「日本の道100選」のひとつにも選ばれている。

計画敷地周辺環境について

昭和から平成にかけては和菓子店や酒蔵、手仕事の店などが点在し、観光地化と生活空間が混在している。



3. 宿場町の景観を支える和菓子屋「金精軒」

建築年（店舗）：1852年（江戸時代後期）
建築用途：宿泊施設（旅籠）
敷地面積：1702.471 m²

甲府市太田町の「金精軒」より暖簾わけを経て、台ヶ原の地に菓子店を開業したのは明治37年(1904年)。中でも有名なのは信玄餅であり、金精軒が商標登録をしている和菓子である。

店舗外観建物は1852年頃に建てられたとする「まるや」という旅籠。



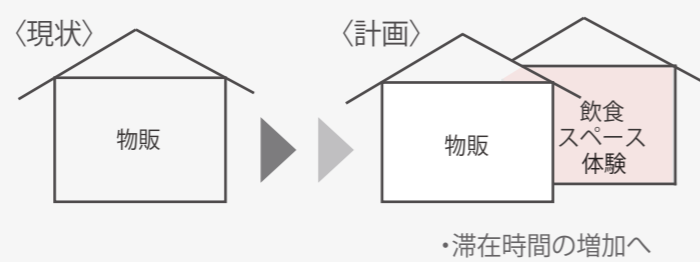
4. 「和菓子の記憶と繋ぐ空間」の計画

空間コンセプトを「和菓子の記憶と繋ぐ空間」と題し、細長い宿場町の敷地形状を活かし、空間がなめらかに展開していく。

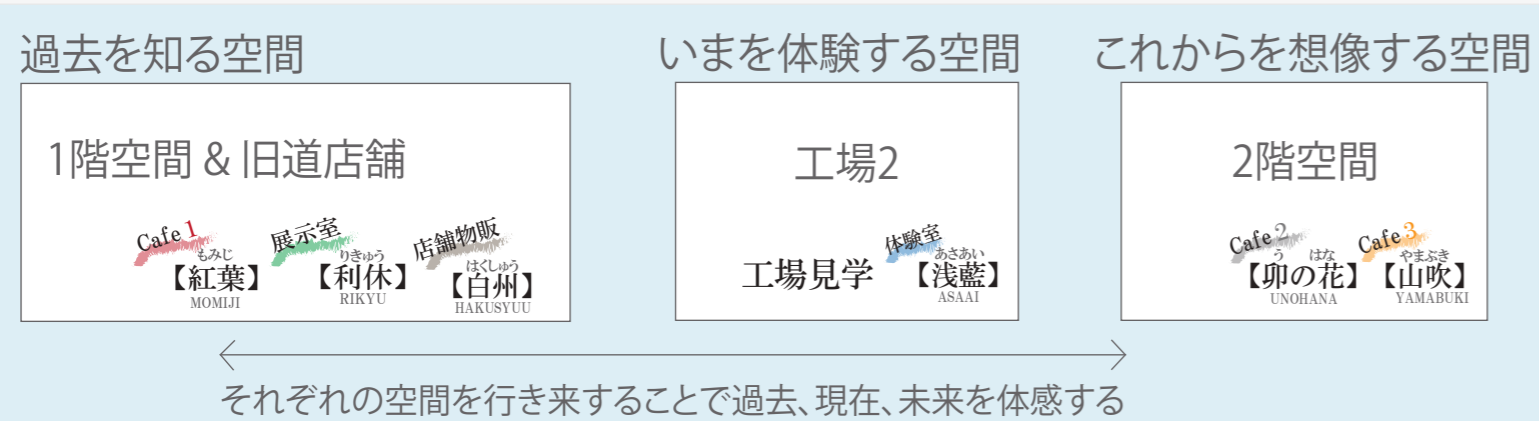
過去を知り、現在を味わい、未来へ繋ぐ場として和菓子文化が静かに人を繋ぎ続ける。

● 物販中心から「滞在のできる場所」へ

既存店舗の物販のみの機能から、飲食、体験機能の追加をすることで、訪問者の滞在時間増加を促す。



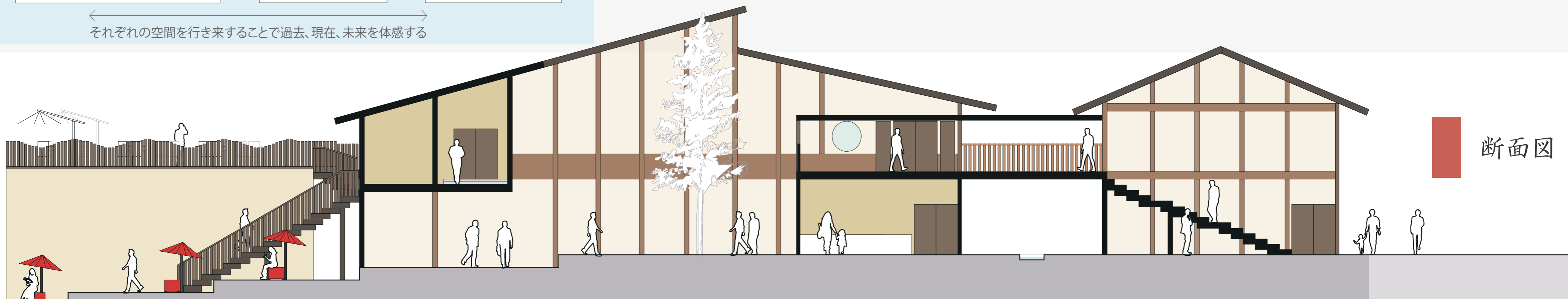
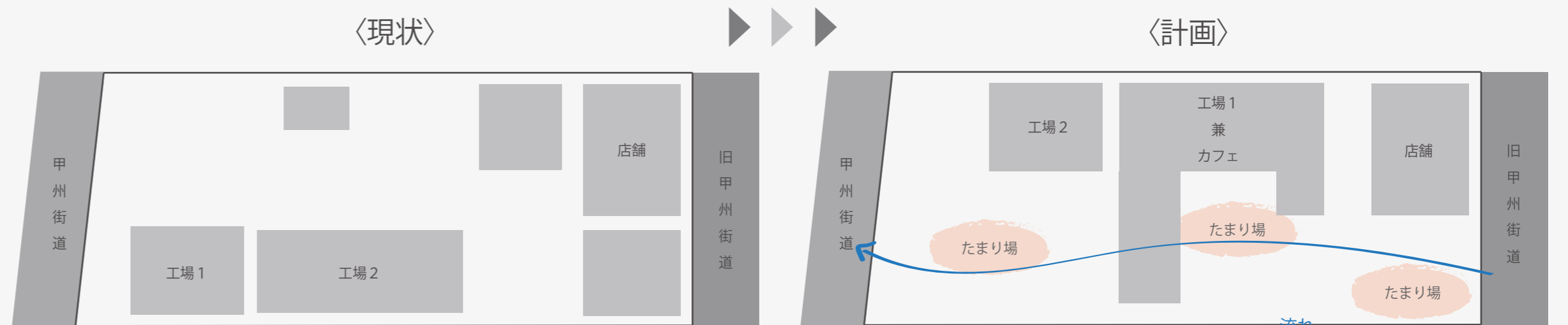
● 過去、現在、未来を繋ぐ空間



● 細長い敷地を活かした「たまり場」空間

店舗外観を残しつつ内部を新たに新設する工場に空間が繋がるようにリノベーションする。店舗、工場、カフェとなめらかに空間を展開し、繋がる空間に「たまり場」をつくることで、訪れた人の滞在を促すと共にリピーターを増やす。

また、隣り合う空間の存在などがわかるように通り抜けができるようにしたり、ガラス張りにすることで開放的で快適な空間に。



2階平面図 S=1:250

Cafe 2 屋外カフェ
【卯の花】 UNOHANA

米のように白く清らかな、やわらぎの空間
ふんわりとした光が満ち、素朴で上品な白が漂う、和の静けさをたてる場所



南側に流れる尾白川とアルプス山脈の景色を望む屋外カフェ。
モダンな空間の中で、光や風、景色を取り込みながら開放的な自然との時間を提供する。

〈材種〉



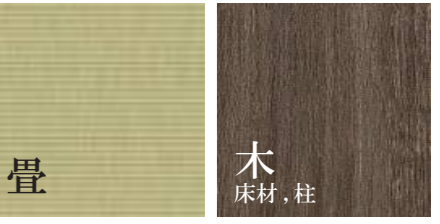
展示室
【利休】 RIKYU

旅籠当時の面影が残る柱と畳空間
旅籠当時の写真や創業当時に使用されていたものを展示



既存店舗2階、展示空間
店舗から工場へと繋ぐために新たに扉を設けた。
畳と柱の空間は旅籠当時の面影を残している。

〈材種〉

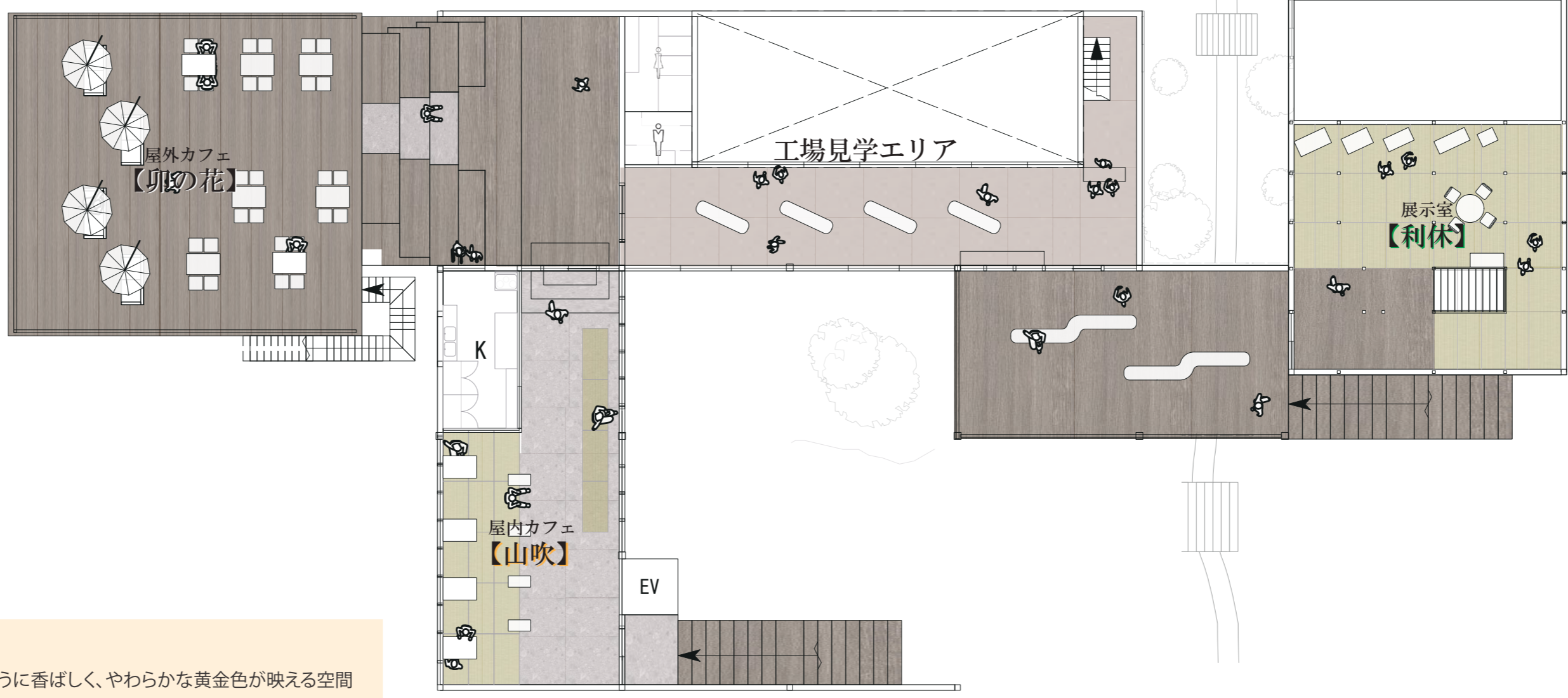


宿場町の趣きを遺した展示室。絵画、家具、手作り扇、カヌーなど広分野にわたって展示をおこなう。

Cafe MENU



地元食材を生かした季節のフードや香り高い珈琲を楽しむ場に。



レジスター



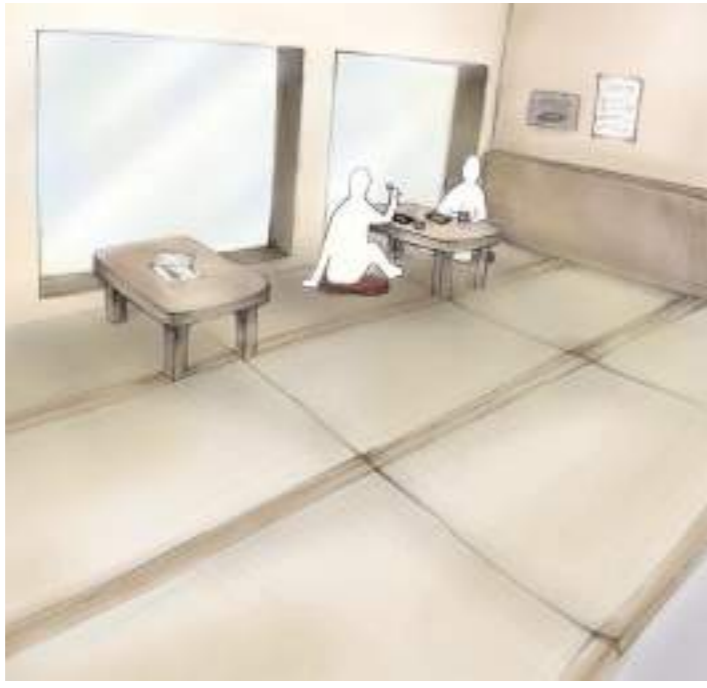
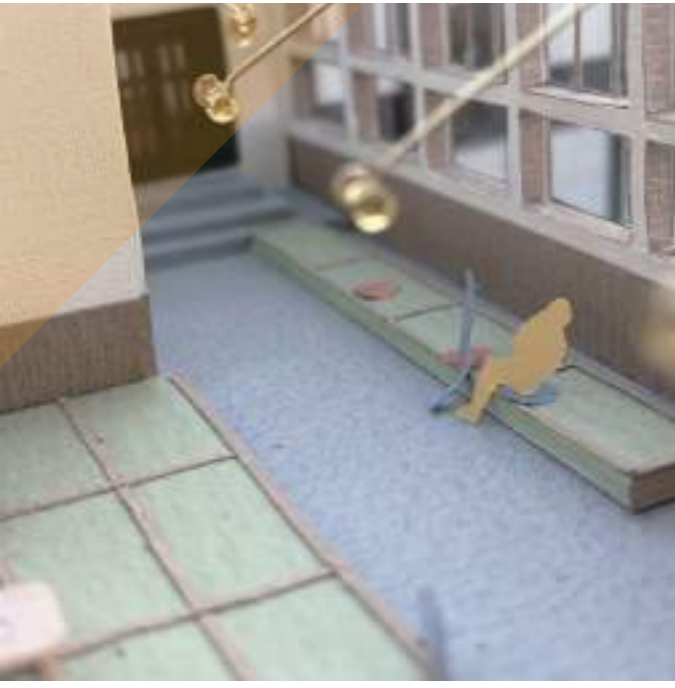
菓子木型



切り絵

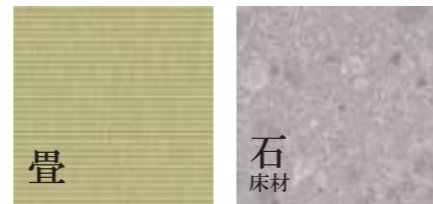
Cafe 3 屋内カフェ
【山吹】 YAMABUKI

きな粉のように香ばしく、やわらかな黄金色が映える空間
落ち着きと品のある和の趣をそと添える場所



敷地中央2階に位置する屋内カフェ
既存金精軒2階を彷彿させる空間で畳の温かさに包まれながら落ち着きと親密さのある空間とする。
南側客席からは1階「屋外庭園 紅葉」や尾白川を望むことができ、北側客席からは1階「中庭ラウンジ 藍鼠」が広がる。

〈材種〉



工場見学エリア



中央棟は製造レーンのある工場
2階からガラス越しに1階にある工場を見学することができる。
製造過程をモニターと実際に見ることで理解を深める。



〈材種〉



配置図兼1階平面図 S=1:250

Cafe 1 屋外庭園
【紅葉】 MOMIJI

敷地を彩る季節の移ろいを映す場所
差し込む光が柔らかく揺れ、あたたかな気配が満ちる“移ろいの庭”



敷地南側に位置する屋外庭園
段差のある敷地形状を生かし、川床を模した空間構成で視線の広がりを生み出した。
訪れた人は、自然を近くに感じながら、おにぎりやだんごを楽しむことのできる空間とした。
また、野点傘を設けたことで日差しを柔らかく遮り、新たな憩いと滞在の場となる。

〈材種〉



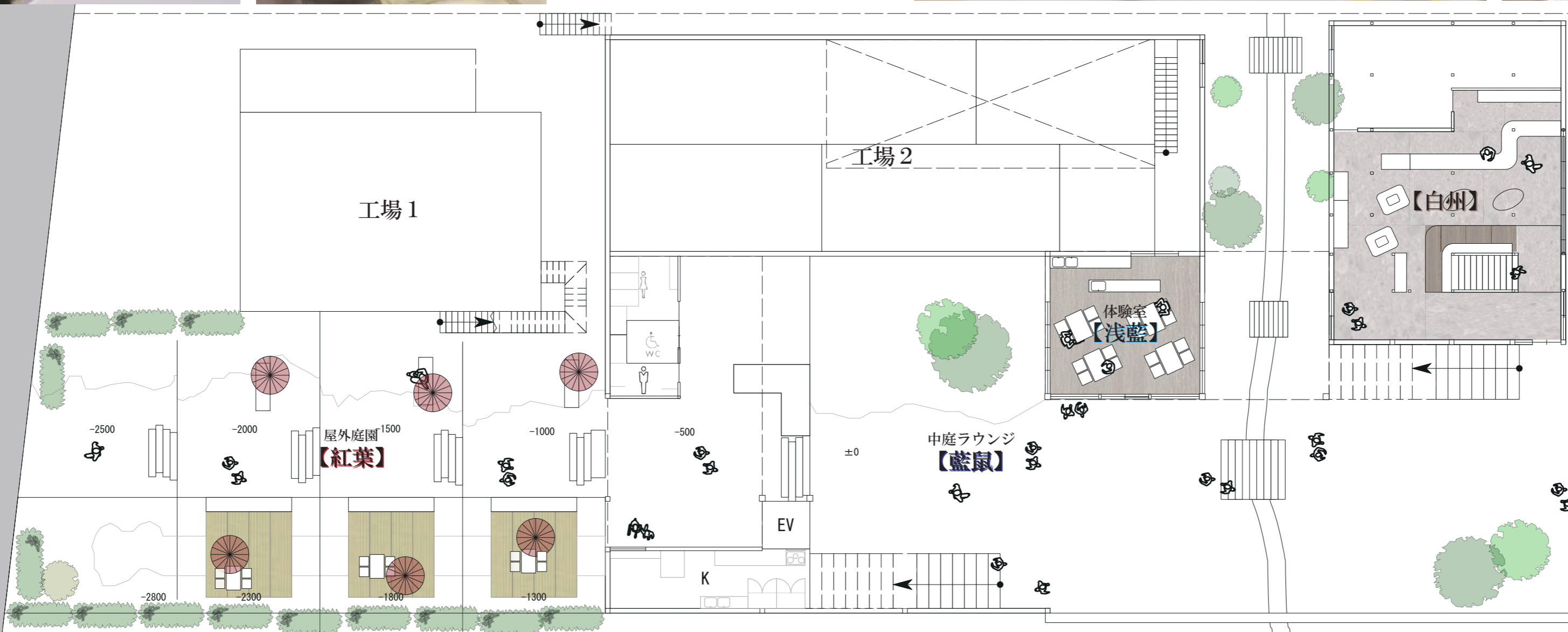
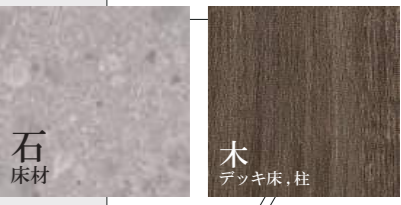
店舗物販
【白州】 HAKUSYUU

米と水に育まれたこの土地の気配を感じ、
金精軒の商品に出会う空間



旅籠から現金精軒店舗に受け継がれたこの建物は、
受け継がれてきた空間の雰囲気、菓子を残したまま「金精軒」の出入口として機能する。
金精軒がこれまで丹精を込めて作り上げてきた和菓子が集い、
白州の地で培われた味と物語に触れることができ、
体験や空間へと誘い、思い出を携えて再び訪れたくなる、
計画の核となるエリアである。

〈材種〉



中庭ラウンジ
【藍鼠】 AINEZU

敷地中央に広がる“砂のいろ”の庭
風と光が通り抜け、「粋」な気配をまとう中核空間
通り抜けになっており、人だけでなく風と光が通りぬける



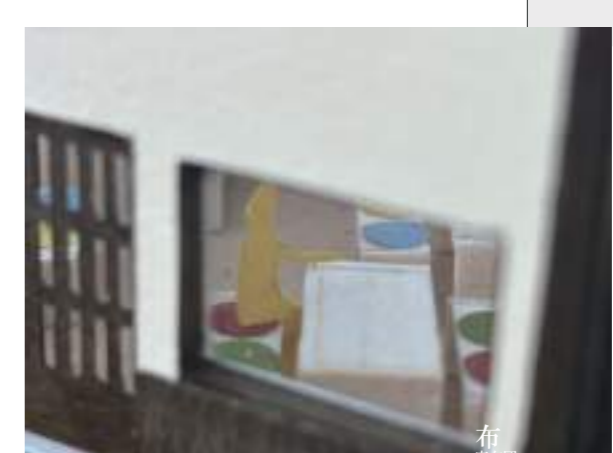
旧甲州街道と甲州街道を結び、
敷地全体を緩やかにつなぐ中庭空間。
人とともに風や光が通り抜け、建築に呼吸を与える。
枯山水やデッキ、小川等の要素を通して、自然を身近に感じながら、静かに滞在できるラウンジ。

〈材種〉

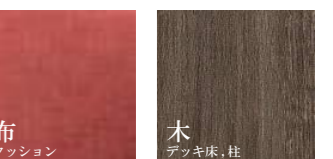


体験室
【浅藍】 ASAAI

流れる水に寄り添い、
手を動かし、学ぶ体験の空間



〈材種〉



練り切りなど四季折々の和菓子づくりを、
少人数で体験できる空間。落ち着いた藍の
色調に包まれながら、和菓子に込められた
季節感や手仕事の美しさに触れる体験室。